

国英地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年11月22日（金）19：00～20：30
- 2 場所 国英地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 15名
市出席者 4名（深澤市長、中島福祉部長、安本地域振興局長、遠藤河原町総合支所長）



- 4 テーマ 世代間の隔てなく地域住民が集い、健康・福祉活動を日常的に行うことで、心身ともに健康でいきいきと生活できる地域づくりを目指す。

5 概要

（地元あいさつ）

国英地区では、皆さんの合意のもと、1市4町の新可燃物処理施設の工事が始まっている。本施設は市民生活にとって不可欠のものであり、平成34年度の稼働予定となっている。安全・安心な施設となるようお願いしたい。

この5年間、国英地区の要望に応じた地域振興策が進められてきた。山手工業団地には工場が建設、操業されている。地域の雇用が創出され、にぎわうことを期待している。

国英地区は農業生産地域であり、そのほとんどは家族経営形態である。日本の食料供給、高齢化率を考えると、家族経営農業を支え、発展させることが重要になっている。

私たちは、行政や議会の先導に期待している。しかし、地域社会を作り上げていく主体は地域住民である。受け身にならず、住みやすい地域づくりに取組めるよう、意見を出していただきたい。

（市長あいさつ）

新可燃物処理施設整備事業は、地域の皆さんのご協力のもと、現在造成工事にかかってお

り、平成33年度に完成、34年度から稼働予定である。また、山手工業団地には企業が進出されている。皆さんと一緒に、国英地区、ひいては鳥取市、東部圏域が活力ある圏域となるよう努めていきたい。

今日は福祉関係のテーマをいただいているが、これは行政が目指す究極のところである。様々なご意見をいただきたい。

国英地区の取組みの説明

<テーマの背景>

少子・高齢化に歯止めが掛からず、独り居りや高齢者世帯の増加が顕在化する一方、核家族化により子育てに悩む世代も潜在的に多いと思われる。例えばサロン（カフェ）を立ち上げて、高齢者の外出機会を増やし、子育て世代の情報交換の場とするなど交流人口を増やし、希薄化した地域コミュニティを再構築するとともに、さらなる強化を図る。

<地域の取組み>

高齢者つどいの会（いきいき国英ふるさとづくり協議会）

隔月に開催し会員・ボランティアのふれ合い交流、健康増進や野外研修を実施。（会員・ボランティア 約25名参加）

体育まつり（地区運動会）、健康まつり、納涼祭、敬老会、異世代交流会の実施

<今後地域が取組みたいこと>

○交流人口を増やし、希薄化した地域コミュニティを再構築する。

- ・サロン（カフェ）を立ち上げて住民の交流の場をつくる。
- ・高齢者に対して介護予防や健康づくり（増進）を行う。（現在の参加者は女性が多い。男性も参加できるようにしたい。）
- ・ボランティアバスの運行（運転手は当番制で有償でのボランティアを考えている）
- ・ボランティアバスを使用して買い物をする（高齢者のために日用品を販売する）
- ・高齢者宅への弁当の宅配（現在は社会福祉協議会が週1回行う）など生活支援サービスの実施。
- ・子育てをしている方の交流の場をつくる（現在はミシン部がある。今年夏ごろから活動。月2回程度開催している。）

（地元）

千代川東側は、西側に比べて少し取り残されているように感じている。せめて健康福祉に関しては負けないように、旧校舎跡に建設が計画されている地域コミュニティ施設も生かして皆さんを元気づけていきたい。また、国英地区には交通バスがないところがあり困っている。地域でバスを運営できたらと考えている。

(市長)

皆様のご協力のもと山手工業団地にも企業が進出している。国英地区は、地理的にも東部圏域の中心にあり、これからますます発展していくと考えている。

一方で、人口減少、高齢化が進んでおり、地域コミュニティを強化、再構築することが、全国の自治体の一番大きな課題だと思っている。現在、地域コミュニティ施設の建設が計画中であるので、サロン等に活用いただき、多くの皆さんが集い、防災拠点としても機能する施設になればと考えている。来年度以降、皆さんの意見をいただいて、国英地区ならではの先進的なサロンを制度化できないか検討したい。

路線バスについては便数が減り、生活交通を維持していくことが精一杯な状況である。公共交通空白地有償運送という、車両購入の助成など一定の支援を市が行い、運営を地域でしていただくような制度もあるので、ご検討いただきたい。

(司会)

買物や病院に行ったり、サロンに集うためにも交通の便が必要であるので、公共交通空白地有償運送の検討もしてみたい。

(地元)

体育施設を兼ねた地域コミュニティ施設を作っただけということでは、皆が気軽に集えるようなサロンに取組み、地域の中核的な建物にしてはとの話を昨年市長がされた。地域もそういった施設が大切であると考えており、とにかく皆が集えることを目標にし、内容を幅広く皆さんに提案いただき進めていきたい。交通の面で、高齢者が手軽に来られない状況にあるので、国英地区でバス事業を代替し、それと併せてサロンに集う方の送迎ができたらと思う。皆さんに気軽に寄ってもらえるよう、夜は居酒屋的な部分を取り入れても面白いのではないかと。

(市長)

現在のサロン事業は高齢者の方が対象だが、地域コミュニティを維持、強化するためには、いろいろな世代の方に気軽に集ってもらえた方が良いのではないかと。国英地区の皆さんからアイデアをいただきながら、来年度以降、モデル的な事業としてやっていけなかと考えている。

(福祉部長)

ふれあい・いきいきサロン事業は、以前から社会福祉協議会を中心に取組まれており、市からも補助を出している。サロンとは、地域ボランティアが主体となって、レクリエーションや会食等のふれあい交流を通じて、生きがいづくりや社会参加を促進する取り組みであり、市内でも開催箇所が増えてきている。国英地区でも、2集落でサロンを行っておられ、今後も多くの集落で行っていただきたいと思う。現在、サロンの回数は月に1回ほどだが、できれば週1回ペースで行い、いろいろな世代の方に参加いただき、交流を深めていただきたい。

い。集落ごとだけではなく、国英地区としても、地域コミュニティ施設を活用し、取組みに向けて話し合っただけであればと思う。

また、介護保険制度の中で、生活支援コーディネーターを設ける仕組みが数年前からできている。鳥取市には現在8名の生活支援コーディネーターがおられ、社会福祉協議会とも連携しながら、地域で暮らし続けるために、こういったことに取組んでいけば良いかについてお手伝いしている。セッティングの際には、支所にご相談いただければと思う。

これらは地域包括ケアシステムとあって、高齢者の皆さんが住み慣れた地域でいきいきと暮らしていく仕組みの1つであるが、その延長線上に地域共生社会がある。市としても、意見交換をしながらお手伝いさせていただきたい。

(地元)

集落でやっているサロンとは別に、地区でもサロンができるということか。

(福祉部長)

地区で行うこともできる。現在、地区で行うサロンをできれば週1回くらいとし、内容を充実させたものにしていただくことで、より手厚い補助が出せないかと検討しているところであり、補助金の仕組み等、地区の皆さんと一緒に考えていきたい。

(地元)

八頭町では、介護保険制度を使ってサロンの取組みを行っているようである。国英地区には屋内運動場もできるので、健康増進を図るような取組みもできないだろうか。

(福祉部長)

八頭町は、多くの地区がまちづくり委員会を立ち上げ、介護保険の取組みや地域福祉の取組みをしておられる。先日セミナーで、事例発表をされていたが、毎週1回サロンに集まり食事をするだけではなく、「百歳いきいき体操」を行っているとのことであった。鳥取市にもしゃんしゃん体操がある。こうしたものを取り入れて、健康づくり、介護予防につなげていただきたい。八頭町は、介護予防・日常生活支援総合事業を使って行っておられる。鳥取市もこの事業を活用して取組みを進めていきたいと考えている。

(地元)

高齢者の集いにボランティアに来てもらっているが、皆さんに楽しんで取組んでいただいている。サロン立ち上げの際には、この経験を生かして皆さんに声をかけて取組んでいきたい。

(地元)

公民館もそうだが、高齢者だけでなく、子どもが寄ってこそ初めて生きると思う。将来を見据えると、少子化の時代だからこそ、今の子どもを大事にして地域とのつながりをつくっ

ていかなければいけないと思う。新しいコミュニティ施設を中心に、地域と子どもが関わっていけるようなものを考えていきたい。また、そのための交通手段も確保していく必要がある。

新しい施設ができることはすごく良いことだと思う。防災施設、サロンを含め、どう施設を活用していくか考えていきたい。

(司会)

公民館の近くには集落が2つしかなく、移動手段がないと集まらない地域である。地域でバスを運行していけないだろうか。

(市長)

地域で集まる場合の移動手段を確保することは重要である。公共交通空白地有償運送は、路線バス等が運行されていない地域等を補うための制度で、末恒地区では実際にNPO法人を作り運営されている。地域が料金とコースを決めて、ボランティアが運転を行っており、運行経費や車両購入について市が支援を行っている。地域の見守り活動にもつながる良い制度と考えており、市としても充実をはかっていきたい。また、サロンの取組みと組み合わせた事業を新設することも含め、検討していきたい。

(地元)

運転者はボランティアだということだが、今の時代はそれではなかなか続かないと思う。

(市長)

純粋な無償ボランティアだと長続きしにくいかと思う。例えば、一定の手当を支給し運転業務に携わっていただく制度も一つの案だと思う。

(地元)

サロンは決まった回数しなければならないのか。週1回ペースとなれば、限られた人しか携われなくなると思うので、臨機応変に考えて欲しい。

(福祉部長)

社会福祉協議会の補助金の制度上、一定回数の事業を行っていただく必要がある。ただ、補助金とは別に地域で独自に考え、活動していただくことは可能である。

担い手がないという話だが、地区全体で見ればまだまだ活動できる方はおられると思う。元気な方に交代でお世話役をやっていただき、お互いに支え合って取組んでいくのが良いのではと思う。

(地元)

地域活動に、女性は出てこられるが男性はあまり出てこられない。きっかけさえあれば出

てきてもらえるようになると思う。

（河原町総合支所長）

新施設のレイアウトを考える際に、他のまちの事例を見たら、缶詰バーをやっているところがあった。地区公民館とは異なり、新施設では収益事業も可能なため、夜の居酒屋といったようなことも柔軟にできるのではないかと思う。

集落で月1回、地区で週1回の実施を目指していただき、国英地区が、地域包括ケアシステムを実現するための介護保険総合事業のモデルになれば良いと思っている。コーディネーターに入ってもらい、他地区の活動を視察に行くための支援を市としても行っていきたい。

（司会）

来年度、小さな拠点事業をしていこうと手を挙げている。視察、研究を行い、新施設ができるまでに立ち上げたいと考えている。

（地元）

サロンに居酒屋をつくるということであれば、送迎のバスがあればありがたい。バスを地域で運転する場合、ガソリン代や保険、車検等の費用が発生するが、地域負担となるのか。

（市長）

車両は市が支援するが、運営していくにあたり様々な経費がかかる。現状は、運営に必要な経費の8割を市が支援し、残りは地域の負担となるが、それが地域にとって重荷となるようであれば長続きしない。今の実態に合ったように制度を見直していく必要があると思うので、既に取り組んでおられるところの実情も勘案しながら研究させていただきたい。

（地元）

ふれあい・いきいきサロンのアイデアがあまり思い浮かばないので、事例集といったものがあればヒントになって取り組みやすくなると思う。

（福祉部長）

生活支援コーディネーターや社会福祉協議会が様々な事例を把握されていると思うので、紹介させていただけると思う。

（市長）

今日は準備不足で事業例の資料をご用意できていない。もう少し具体的な資料がないか探してみたい。生活支援コーディネーターも、地域に出向かせていただいて、各地域の取り組みをご紹介いただけると思うので、皆さんと一緒に取り組みを進めていきたい。

(長寿社会課補足)

鳥取市社会福祉協議会が、ふれあい・いきいきサロンの活動内容等を紹介した「ふれあい・いきいきサロン活動の手引き」を作成し、河原町総合福祉センターで希望者に配布していますのでご利用ください。また、生活支援コーディネーターや河原町総合福祉センターの職員が、各地域の取組み事例を紹介させていただきますので、河原町総合福祉センターにお気軽にご相談ください。

(地元)

国英地区にはバスが通っていないところがある。子どもたちの通学にバスがあればと思うが、何とかならないか。

(市長)

路線バスは難しいと思う。公共交通空白地有償運送という制度もあるが、地域のご協力が不可欠である。全国各地で公共交通を維持していくのが難しくなっているが、何か通学に活用できる制度がないか研究してみたい。

(地元)

路線バスや委託バスで通学している方がいるが、そうした通学の補助金があるのか。

(地元)

距離制限があったかと思うが出ていたと思う。

(学校保健給食課補足)

本市では、鳥取市遠距離等通学費補助金交付要綱に基づき、通学距離が小学校では片道3 km以上、中学校では5 km以上の教育委員会が定めた地域から通学する児童生徒の保護者に、バス通学の定期券購入費の一部を補助しています。

国英地区では、河原第一小学校に通う場合、高津原、釜口、六日市、三谷が、河原中学校に通う場合、六日市が対象地域となっています。

(地元)

公共交通空白地有償運送でルートを組み、基本は遠いところの運行だが、冬場は近いところでも運行するという形はとれないか。

(市長)

いくつかのコースを決めて運用することになると思うが、季節によってコースを変更することも可能だと思う。制度としてなければ作れば良いので、研究してみたい。

(地元)

支え愛マップでは、支援対象者を決めるだけでなく、実際に誰がどう支援するかを決める必要がある。関わる団体が多くなると、様々な意見が得られる一方、衝突を防ぐため、調整やコーディネート必要性も感じている。

(市長)

いろいろな団体の方が集まる中、同じような取組みをされている部分もあるかと思う。支え愛マップの取組みは、災害時の避難経路、役割分担をあらかじめ話し合い、各団体間の調整をしていただくものである。国英地区も様々な災害が想定されるので、こうしたマップづくりをもとに各団体の調整を図っていただければありがたい。

(地元)

例えば釣りのように、子どもの興味があることを通じて世代間交流を図ることができないかと考えている。時間的余裕のある高齢者と地域の子どものつなぐ取組みだと思うが、こうした道具の購入等に対し、サロン事業の枠の中で補助してもらえないだろうか。

(市長)

サロンで釣りは想定していなかったが、世代間交流の一つの手段として素晴らしいものだと思う。現在の助成制度に自由度をもたせてほしいということで提言を承らせていただく。

(地元)

国英地域に馴染むかわからないが、こども食堂を実施することはできないだろうか。

(市長)

こども食堂は、我々は地域食堂と呼んでおり、あらゆる世代の方に参画いただき、世代間交流、コミュニティの強化につなげていこうと、市内全域で17か所を目標に実施している。地域食堂のネットワークも昨年できており、食材提供や金融機関などあらゆる分野の方に参加いただいている。より多くの地域で取組んでいただければと思っており、国英地区でも希望があればご一報いただきたい。

(市長あいさつ)

国英地区の皆さんには様々な面で格別にお世話になっており、重ねて感謝申し上げます。今日は様々なアイデア、ご提言をいただいたので、それを具体的な形にできるよう知恵を絞っていきたい。新施設ができるまでに、国英地区でのサロンの取組みが、先進例として確立できればと思う。

生活支援コーディネーターにも地域に出向いていただくよう、支所を通して進めていき、新事業、新制度についても担当部局で具体的に検討していきたい。